

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	憩いの里 みずほ
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	瑞穂市
記入者名 (管理者)	長谷川 洋子
記入日	平成 19年 5月 13日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>管理者、職員共に認知症対応型共同生活介護を理解しており、社内理念である、「さまざまな機会を通じて地域の人々とのふれあいを大切にする」という目標をどのように具現化していけるかなど、ホーム会議で話しあう時間を持っている。</p>	<p>○</p> <p>管理者、職員にとどまらず、運営推進委員会や町内の行事などにおける交流の場を通して、地域に根ざした地域密着型サービスの機関であることを共通理解し、認識していきようにしていきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>申し送りの際、職員は社内理念をその都度唱和し、意識付けしている。ホーム会議の際にも唱和を行い、事例検討し、より良い援助を討議している。</p>	<p>○</p> <p>ホーム会議の場だけではなく、申し送りの際などに、援助を提供していく際に戸惑った点について、理念に沿ったサービス内容であるか等をその都度討議することで、理念を共有し、実践していきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ホームの運営理念が地域に理解されるよう、みずほ便りに記載し、ご家族様へは送付、地域の方へは回覧させていただいている。また、2ヶ月に1回の運営推進委員会においても、理念を伝え、その具体的なサービス内容を説明させていただいている。</p>	<p>○</p> <p>利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、常に浸透させていきたいという思いを持ち、地域の人にホームのことを伝えていきたい。</p>
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣の方々及び農作業中の方へ、散歩時に声をかけ、ご挨拶をしていることなどが実を結び、お子様連れの御近所の方が来訪されるような関係性が築きあげられている。</p>	<p>○</p> <p>お子様連れの方に留まらず、ご利用者様方と同世代の方々など、幅広い年齢層の方々の憩いの場となれるよう、交流を深めていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>広報は毎月配布していただき、職員及び利用者で閲覧させていただいています。みずほ便りも回覧していただいております。地域の側溝清掃への参加などを通して、交流の機会とさせていただいている。地域のお祭りの際には、御神輿とともに地域のお子様達が来訪して下さる。</p>	<p>○</p> <p>地域の行事日程に合わせ、ホームの行事を検討し、来訪していただく機会を積極的ににつくってきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	みずほ便りに、次月の行事開催日程を記載し、地域の方々の参加を呼びかけ、共に楽しめる時間をもっていただく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	個別サービスの徹底と統一に向けての取り組みを強化することによって、その人らしさへの援助を追及していきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	運営推進会議においては、口頭でのサービスの実際の報告に過ぎないため、会議参加者ごと利用者さまとの交流の時間を短時間でも持っていていただき、実際のサービス利用者様の声を聞き、雰囲気などを感じていただきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	高齢福祉課や社会福祉協議会などの主催する市町村事業を事前に通知していただき、連携できる体制を整えていきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度においては、共に制度内容が複雑であり、申請方法なども理解が難しいが、包括的な支援として、職員が、その制度を理解していく必要がある。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	虐待においては、身体拘束を持つのみではなく、何気なく発した言葉が「虐待」に繋がるという認識も忘れずもって、対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、わからない事が多く不安を抱いておられることを考慮し、繰り返し丁寧に説明をさせていただいている。項目毎に確認し、時間を経過しての疑問点や確認事項についても、遠慮なく質問して下さいと伝えている。</p>	<p>○</p> <p>契約時には繰り返し事業所でできること、できないことを説明し納得していただけるよう説明を行っているが、細かい部分での相違が生じないように今後も納得いただけるまで、繰り返し丁寧な説明行っていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>○</p> <p>ご利用者様のお話しは、ゆっくりうかがう時間を持ち、ご利用者様第一で運営している。苦情などを聞いたスタッフは書面に残し、ホーム会議で話しあう時間を持っている。ご家族様の面会時、配慮させていただく点がないかの確認をおこなっている。ご意見への対応は速やかに行い、経過報告させていただいている。</p>	<p>○</p> <p>介護相談員の派遣受け入れは整えてあり、来訪依頼もあるが、期日が未定であるため、こちらからの働きかけが必要である。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>○</p> <p>面会時には、必ずホーム内での様子を伝え、話し合っている。面会の少ないご家族様へは、最低1ヶ月に1度は電話連絡をし、様子をお伝えしている。金銭管理は、おこづかい帳に領収書をつけ、ご家族様にサインをいただいている。</p>	<p>○</p> <p>一家族のご家族様とは、P.Cメールでの通信を行っているため、日々の表情として、写真をメールに添付するなどして状況を連絡している。とても喜んでいただいているため、他家族の方々の中にメールでの通信可能な方の有無をうかがい、便利な通信方法を積極的に活用し、交流の機会を持っていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>○</p> <p>ご家族様には、来訪時やお手紙で常に問いかけ、意見を表出しやすい雰囲気づくりを心がけている。施設内玄関に意見箱を設け、自由に意見・要望など受け入れられるようにしてある。さらには、第三者機関への連絡先のポスターを玄関に掲示している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>○</p> <p>職員は、ホーム長または管理者に、自分の悩みや思いを常に訴えられる関係性にある。また、月に1回のホーム会議においても、悩みを共有する時間を持っている。</p>	<p>○</p> <p>運営者、ホーム長、管理者は日ごろから職員の要望や意見を聞く体制ではあるが、不満や苦情はとても言い難いことなので、これからも、こちらから問いかけていく姿勢を大切にしていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>○</p> <p>利用者の心身の状況に応じ、業務改善を行っている。</p>	<p>○</p> <p>現在、基準人員は満たしているが勤務者の変更を可能とした配置には至らず、今後柔軟に対応をさせていただけるような人員の確保が望まれる。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>○</p> <p>担当職員を固定し、利用者様の状況により、個別対応をさせていただいている。さらに、ホーム内においては、各ユニットにこだわらず交流の機会を持っている。離職の際には、時期や引き継ぎの面で最善の配慮をしている。</p>	<p>○</p> <p>職員の体調不良を理由とした離職に関しては、その時期などを配慮するといった点では難しいため、これからも、他職員は、利用者様への負担を十分理解した対応を行ってきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム長及び管理者は、ある新人研修.No.1～No.5の段階に応じた社内研修への積極的な受講を促し、勤務調整を行い、その機会を確保している。研修を受けたあとは、会議の席において、研修内容の報告を行い、職員全体で知識を共有していけるような機会を作っている。</p>	<p>○</p> <p>研修に出席する意義やその必要性を常に再認識し、意欲を引き出していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ホーム長及び管理者や職員は、近隣の老健が主催する勉強会に参加している。また、こちらから、習得したい内容を要望として提案し、開催していただいた。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者(マネージャー、サポーター)は、機会ある毎にホームを訪問し、ホーム長及び管理者や職員の意見を直に聞き、相談にのるなど、対応策を練っている。相談のある際は、通信機関を利用して直接話しができる。また、社長は、自身の携帯番号・メールアドレスを公表し、何かあれば連絡するようにと公言されている。忘年会などの食事会を開催している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、訪問時、常に職員への労いの言葉をかけ、優しく親身になって相談にのってくださるなど、意欲の向上に努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご利用者様が入所される以前での機会においては、ホームでの生活など具体的に説明し、ご本人様からの質問にも丁寧に返答している。入所時や入所されて間のない時期には細心の配慮で対応し、要望をうかがい、受け止めている。</p>	<p>○</p> <p>事前面談で生活状況を把握し、不安を理解しようと工夫しているが、これからも、必ず本人に会って本人と向き合う姿勢をもっていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初めて相談を受けた際に、ご本人様とご家族様がどのようなことを困っていて、利用が適切であるかどうかをよく話しあっている。事前面談の際、丁寧に事細かく説明し、その後質問に対し不安が解消されるまで対応する。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の際、ご本人様の状況を見極め、グループホームに適した入居対応者であるか、十分検討している。状況に応じた、情報提供をさせていただいている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際は、ホーム内の見学をしていただき雰囲気を肌で感じていただく。体験入居システムのご案内をし、そのシステムの利用を推奨している。	○	入居契約時から、入居日までの日にちがある時などは、ご本人様・ご家族様との連絡調整を行い、職員がご自宅にうかがったり、ホームへ遊びにきていただけるようなかかわりから、入居への不安を最少にしていく努力をしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常にご利用者様の人格を尊重しつつ、ご利用者様の生活のお手伝いをさせていただき、共に生活を営んでいるという認識をもった関わりをしている。日々の活動を通し、円滑な関係性を築いている。	○	職員は、利用者様からのいたわり、励ましの言葉をいただき次への活力としている。お互いに支えあえる関係性を今後も大切にしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時など、ご家族様との交流の時間をもち、ご利用者様を理解すると同時にご家族様の思いを理解したいと努めている。ご利用者様の状況を共通理解し、関わっていくなかで、双方が支えあっている関係性を築いている。	○	これからも職員は、ご家族様の気持ちに近づき、ご利用者様と一緒にささえる思いで支援していることを伝えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人様とご家族様、及びその関係性を冷静に且つ客観的に理解することで、円滑な関係性への提案が可能である。方法をご提案させていただき、良い関係性へと導いている。	○	家族が疎遠になってしまっているケースについては、その修復への取り組みが難しく、なかなか結果も見えてこないが、努力は怠らず、あきらめることなく取り組んでいきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。ご家族の協力を得て、馴染みの方との連絡調整を行い、思い出の場所への外出などをご提案させていただいている。	○	ご家族及びご親戚の方の把握は容易であるが、近隣の友人などの把握は困難な面もあるが、ご家族様との交流を深めていくなかで理解し、つながりを継続していけるよう支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間関係性を職員は情報共有している。利用者間の交流を職員は見守り、状況に応じて職員が介入し会話を助けている。会話の内容が共有ができていない時などは、職員が会話を繋げていく。	○	職員のコミュニケーション能力も問われるが、利用者同士の助け合いを上手に引きだせるような介入を考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去の際は、十分な情報提供を行い、ご家族とよく相談の上、契約内容に基づき決定している。退去後、ご家族様からの相談があれば、迅速に対応している。		他事業所へ移られたご家族からの相談に これからも親身になって対応していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常に入居者様の思いや何をしたいか、誰に会いたいかなど、常に興味関心を持ち、教えて下さいという気持ちで会話から、引きだそうと努めている。また、人格を尊重し、利用者様本位の視点に立ち検討した援助を行っている。	○	思いや意向が明確に把握できない方に関しては、ご家族様と職員とでの話し合いを十分に行い、ご本人様の視点で考えていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、ご自宅にうかがいご本人様、ご家族様からお話をうかがっている。利用者様の生活歴、現在の生活スタイルを少しずつ把握したいと努力している。入所後においても、ご本人様、ご家族様から、どんな生活をされていたかを聴いている。	○	ご家族様やご親戚の方に留まらず、ご家族様の了解を得て友人や近隣の方からの情報を得られるようにしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	それぞれのご利用者様の生活リズムを理解し、その時々々の表情や行動などから察知し、心身の両側面からその方の全体像の把握に努めている。	○	ご利用者様のできることに着目し、ご本人様を理解していく姿勢を持ち続けたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中から、ご本人様・ご家族様からの思いや意見を聞き、プランに反映させるようにしている。職員は意見交換を密にし、利用者様本位の個別サービスとは何かという視点からカンファレンスを行っている。	○	本人の意向を反映させていく取り組みを大切にしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は情報を共有し、ご本人様やご家族様の思い、要望を取り入れ、期間の終了の有無に関わらず、見直しを行っている。また、状態の変化に応じて、見直し変更を行っている。	○	刻々と変化しているご利用者様の状況を把握し、介護計画に反映させていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を用意し、食事・排泄・身体状況や毎日の様子や、その日のできごと、ご本人様の言葉などを記録して、個人ファイルに綴っている。職員は、常に記録に目を通し、情報の共有を徹底している。個別記録からも、介護計画の見直しを検討している。	○	ケアをしながらの職員の気づきを職員全体で共有していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人様とご家族様の状況に応じ、通院などの必要な送迎は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。	○	ご利用者様ご家族様とが安心して暮らしが送れるよう支援を続けていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者様と地域との交流の機会が多く持てるよう、ボランティアの協力を呼びかけている。また、ご利用者様が安心して暮らせるよう、警察や消防、民生委員との交流の機会を持っている。	○	ご利用者様の外出先などとして、地域の図書館などを提案し、地域の資源を活用していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者様の状況やご希望に応じて、ボランティアの支援を利用できる体制を整えている。また、ご利用者様の希望に応じて、訪問理美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度や権利擁護事業に関しては、必要だと思われる利用者様に情報を提供し、今現在2名の方がご利用されている。今後も状況に応じ必要性があれば活用できるよう支援していきたい。	○	地域包括支援センターとの連携を密に行い、ご利用者様本位の支援に向けた協働をしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様とご家族様が希望されるかかりつけ医となっている。事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療も受けられるよう、ご家族様と協力し通院介助を行っている。また、状況に応じて、往診依頼をし、常に医療機関との連携をとっている。	○	受診結果に関する情報の共有に関しては困難な時もあり、その方法についての検討もすすめていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の中で相談できる認知症専門医を確保できており、受診し指示を受けている。また、認知症についての指示や助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。看護師がいない時は、介護職員の記録を基、確実に連携を行っている。また、看護師と提携医との連携も密に行われている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院に伴うリスクから早急に回避できるよう、医療機関との話し合いをし、ご家族様とも情報を交換しながら、事業所での対応可能な段階で速やかな退院支援をおこなっている。	○	医療機関との連携に関しては、個人情報保護法の施行に伴う弊害もあるが、ご家族と三者が一体となることで連携を図っていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向、ご本人様がどうあったら良いのかを常に話し合う機会を持っている。また、事業所が対応できるケアに関しても、契約内容を基準に話しあい、ご家族様の気持ちにも配慮した支援を行っている。	○	常に職員の共通理解できるよう話しあう機会を持っているが、やはり、終末期に関してはそれぞれの思いもあるため、繰り返し意見交換をしていく必要がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人様やご家族様のご意見、ご意向をおうかがいし、かかりつけ医と職員が連携をとり、終末期を安心して送っていただけるよう配慮している。急変時には速やかな対応をしている。	○	終末期へのご意向に関しては大変お伺いしにくい内容であり、また、非常に重大な事項でもあります。それらを考慮し、関係性を基に支援していきたいと思っております。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活の場を移された後も、環境の変化に伴う急激な変化に困惑されないよう、情報交換を行い、移動先との連携をおこなっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関しては、職員全員が理解し、援助の際も心がけている。プライバシーにも気を配り、自尊心を傷付けるような声掛けや援助は行われていない。職員間でお互い気をつけるよう声をかけあっている。	○ 家庭的な雰囲気には抱かれており、また馴染みの関係にあることも手伝い、双方が気付いていないうちにプライバシーを損ねるような対応をしているのではないかとという視点で、常に振り返っていききたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は、入居者様一人ひとりの意見や要望を表出できる雰囲気を大切にし、日頃から自分で決める場面や、自分で決めるような促しを行っている。職員は、本人が選びやすい場面を提供している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など1日の流れはあるが、ご利用者様の生活リズムで起床、食事摂取、入浴、入眠などしていただいている。その日に外出の希望があれば、調整し柔軟な対応をしている。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時の更衣は、ご利用者様に選択していただき、選びやすいような場面をもち自己決定していただいている。鏡に映し、一緒に選ぶなど、様々な工夫でご利用者様の意見をひきだしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは季節を考えたものとなっており、ホームでご利用者様方が栽培・収穫された野菜を食材に使用するなどしている。職員と利用者は、同じ物を同じテーブルを囲んで楽しく、家庭的な雰囲気で食事を楽しんでいる。	○ 近くにしめじを販売しているお店があるため、散歩がてら利用者様方と買い物に行っています。買ってきたしめじをどのように調理するかを考える過程もそうですが、食する瞬間においてもとても喜んでいただいているので、今後も一緒に食材選びから楽しんでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員はご利用者様の嗜好品を理解しており、日常的に気を配り提供している。誕生会や行事食を考える際は、嗜好品を考慮し、メニューを決めている。嫌いな物に関するおき、品替えし、提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者様それぞれの排尿間隔を把握した支援を行っている。また、尿意、便意を催した際の特徴を理解し、誘導している。トイレで排泄できるよう、排泄の間隔を理解し、オムツから徐々にパッドへ変更していき、自然に離脱できるよう経過を踏んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望日、時間をうかがい、入浴をしていただいている。入浴拒否をされる方に関しては、表情などから日時を考慮し、声かけや対応の工夫を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人様の生活リズムへの配慮と共に、生活リズムを整えていく取り組みも心がけている。夜間の休息が十分とれるよう、日中の活動の工夫を行っている。夜間、眠れないときは、暖かい飲み物の提供や穏やかな雰囲気での会話を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者様それぞれの得意な分野のお手伝いを依頼して行っている。表情や取り組み方を観察し、できることを伸ばしていくような取り組みをしている。行事やレクにおいても同様である。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事業所での管理を行っているが、外出時や、買い物・外食へ出かける際はご自身で支払っていただけるよう、お金を手渡している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人様のその日の気分や体調に合わせて、天候も考慮し、日常的に散歩や買い物などの外出の機会を持ち、季節を体感していただいている。ご利用者様それぞれのご希望もあるので、その方の興味・関心ごとに合わせた外出を支援している。	○	ご要望をはっきり伝えられる方に関しては、十分させていただけるが、訴えの不明確な方への支援として、その方の生活歴や親しい方からの情報を基に分析し、検討していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「一度い実家を見にいきたい」「桜を見にいきたい」といったご本人様のご要望がうかがえた時は、計画を立て、職員の勤務調整を行い実行している。遠方への希望が聞かれた際にも、実現に向け、ご家族様、職員との話し合いを行い、検討を重ねている。	○	ご利用者様の身体機能面やご家族様のご事情から、遠方への外出の機会を多く持つことは困難ではあるが、実現に向けての支援を続けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望に応じて、電話や手紙をだせるよう支援している。電話の際は事務所内の電話を使用いただき、会話を楽しんでいただけるよう配慮している。また、ご家族様からの電話があった際も、ご本人様への取り次ぎをうかがっている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご面会時間は設定しておらず、ご家族様の都合に応じていつでも訪問していただけるよう配慮し、訪問しやすい雰囲気作りを心がけている。訪問時に気兼ねなく、ゆっくり過ごしていただけるようセッティングしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、権利擁護や身体拘束に関する知識を得て、正しく理解し、実践している。業務開始時の申し送りの際や、ホーム会議において、援助内容を振り返り、必要性を日々意識し確認している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご利用者様の表情や行動から外出をしたいか察知し、状況に応じた声かけを行っている。「どこに、なにをしにいきたいのか」など、その日、その時々気分をわかろうとした見守り・声かけの方法を工夫し、安全で自由な暮らしを支援している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、食事の準備や記録など、利用者とは過ごす居間にて行い、何かをする傍ら、さりげなく見守りを行っている。夜間は、物音に配慮し、心身の状況に合わせた巡回を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者様の状況と、安全面の両側面から検討し、厳重な管理、使用時の見守りが必要な物とで区別している。様々な状況のご利用者様が入居してみえるため、共同の生活スペースでの管理には注意を払っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故やヒヤリハットを、その都度記録に残し、その防止策を日常的に検討している。そして、それらの内容から、今後予測され得る事態に関する話し合い、検討も行っている。事故発生時には、速やかな対応を行いご家族様への報告、今後の注意事項についての検討を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	消防署の方からの救命救急蘇生指導以外にも、職員は自主的な訓練を行い、緊急時に自信を持って実施できるような体制でいたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	○	高齢者の特徴をよく理解し、今後も早期発見にとりくんでいきたい。
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	協力医の調剤薬局薬剤師からの協力を得て、薬物に関する知識を深めていきたい。
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	○	咀嚼や嚥下から考慮した時、繊維質の多い食材の調理の工夫や、水分を多く摂取していく工夫はこれからも取り組んでいき、体調管理にも留意していきたい。
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	○	好き嫌いがあるように、歯磨きの方法や必要物品も違いがある。歯磨き粉へのこだわりやブラシへのこだわりなど、小さな本人の決まりごとを叶えていけるよう、これからも取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	○	<p>建物の構造上で困難な点もあるが、ご利用者様方が心穏やかに過ごしていただけるよう、職員全員で知恵を出し合っていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や家族の写真などを居室に持ってきていただき、安心して過ごしていただけるようにしている。日用品や衣料品、雑貨の全てにおいて、使いなれた馴染みのあるものをもってきていただけるよう依頼している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	喚起は常に心がけて行っている。温度・湿度計とご利用者様の様子・意見を聞き調節しており、冷暖房は常温との差が多ならないよう5度前後で使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化を考慮し、調理台やシンクの高さ、浴室やトイレの手すりなど、利用者様の自立支援を配慮した工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご本人様の状況を理解し、できることに着目し「どうしたらできるか」を考え環境整備に取り組んでいる。状況の変化に早期に気づき、迅速で的確な工夫を、職員全体で話し合い対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭先のプランターに花を植えたり、畑に農作物を植えるなどの活動を日常的に行っている。庭先にはベンチがあるため、玄関先にあるイスも出し、利用者が日向ぼっこをするなどして活用している。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

運営推進会議を通して、グループホームという機関の担う役割や位置づけを理解していただけたらという強い思いを伝えられるよう、開放的な雰囲気の中開催させていただいています。その結果、近隣の方から、農作物をご提供いただいたり、ホーム内玄関先にて談笑されていたりとご理解の上での関係性が構築されてきております。ご家族様との信頼関係におきましても、実家に遊びに来る感覚で来訪していただけるような関係性を築いており、常に話し合い、相談できる機会を持っています。基盤としている考えは、常に利用者様の笑顔を守っていくためにはどうしたらよいかを一番に思い、判断しています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	憩いの里みずほ
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	瑞穂市横屋562-1
記入者名 (管理者)	長谷川洋子
記入日	平成 19 年 5 月 13 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしいシルバーライフをサポートさせて頂くと言う会社理念に共感を持ち、ホームとしては、その人らしくを念頭にし具体的にどうするかなど会議で話し合いの場所を作っている。	
<input type="checkbox"/> 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目標にし朝、夕の申送り時または、ホーム会議の始めには理念を三和し新人には理念の内容を説明し共感できるようにしている。	
<input type="checkbox"/> 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	みずほだよりには理念を載せてご家族には送付し、地域の方には回覧をして理解をして頂くように努めている。また運営推進委員会でもサービス内容について検討している。	
<input type="checkbox"/> 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時など近隣の方に挨拶から始め、声をかけていただいたり、子供だけで遊びにきたりとかかわりを持てるようになった。	○ 今以上、地域の方とのふれあいをもちたいと思われる。
<input type="checkbox"/> 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	広報は毎月、町内会より届けて頂き利用者様も読んでおられ話題の材料になっている。また秋には子供みこしが来訪し大変喜ばれている。側溝清掃など積極的に職員が参加している。	○ 地域の行事に参加することやホームの行事に地域の方の参加に呼びかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	近隣の高齢者の訪問が気軽にいただけるようによびかけていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	ホームからの報告だけでなく、実際に会議の参加者に入居者に生の声を聞いていただくこともしていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	以前行われた介護者教室など依頼があればまた協力していきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>契約の際は、細かく丁寧に説明し理解を得ている。またいつでもホーム長の携帯電話でも対応できるようにしているためその後でも対応している。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>どんな苦情でも、依頼でも、聞いたスタッフは報告し、ホーム長は書面にし、ホーム内にて話し合いをしている。また運営推進会議にて報告している。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>面会時には暮らしぶりや健康状態をお話し、体調の変化があった場合はその都度ホーム長か管理者が状況報告。担当者が変わった時は面会時報告している。面会に来られない方は月1回ほど電話にて近況報告している。月1回ホーム便り発行している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>意見箱を設置、ホーム長より面会時、家族に声をかけスタッフの対応についてや、本人からの要望などないか聞いている。苦情窓口を玄関に掲示している。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>ホーム会議等には意見、提案が活発に出るように日々職員とのコミュニケーションを図っており、退社時などにもかならず一言声をかけている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>利用者の身体の状況により、対応できる様にしている。</p>	○	職員の人員を増やして今以上に対応できるようにしたい。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>職員の異動、退職は最低限にし、1階2階のスタッフは両ユニット対応できるように常に情報は提供されている。スタッフも両ユニットの利用者とかかわりをもっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社内研修が新人研修から5段階に応じて実施されているため、自由に参加できるようにしている。また外部からホームへ来ていただき感染症などの講習など開催している。研修報告書を提出しホーム会議などで報告し共有している。</p>		
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の老人保健施設の主催される勉強会に参加したり、スタッフから取得したい内容の要望をだして依頼してりしている。</p>		
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>機会ある毎に訪問され気軽にスタッフに声をかけている。忘年会など食事会を開催している。また社長個人のアドレス、携帯番号などスタッフ全員に好評され気軽に連絡できる体制をとられている。また本社にケア・マネジメント室があり職員の相談窓口となっている。</p>		
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>マネージャー、サポーターの方が社内研修時には少人数制にされ気軽に意見など言いやすい場を提供されている。また色々な委員会を発足し、活躍の場が広がっている。</p>		
<p>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
<p>23</p> <p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>依頼があつてから、何度か連絡をとっている。アセスメントをし現状を把握し本人の言葉で色々聞き不安を軽減できるようにしている。</p>		
<p>24</p> <p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の相談を受けた時、ご家族の思い等をよく聞き不安、心配なことなど時間をかけて聞き、一例など話し不安など軽減できるようにし、信頼関係を作るように努力している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p> <p>契約終了時には必要とされる情報を提供し、家族より相談事など連絡があれば敏速に対応している。また入院されたなど聞いたときは顔をだすこともある。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> <p>希望や意向を聞きだすために、常に会話をしているいつでも気軽に言える雰囲気を作っている。</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p> <p>アセスメント時に今までの仕事、結婚などの生活歴をなるべく細かく情報収集し、現在も面会時に懐かしい話など家族に聞かせていただき収集を日々している。</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p> <p>利用者の日ごろの行動や身体状態を観察しスタッフに情報提供している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> <p>ケア・カンファレンスを開き日ごろ関わりのあるスタッフの意見を聞いたり、家族の要望、本人の要望など取り入れて、個別サービス計画を作成している。</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> <p>スタッフは情報を共有し、見直しは期間関係なく、必要と思われた時に家族、本人の意見も取り入れ変更している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画によりケアを実践し、生活記録、身体状態に記録を残し、スタッフはすべて目を通し共有している。個人記録も参考にし介護計画を立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診希望や、個人の買い物外出など同行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアで三味線、オカリナと慰問を受けている。また安心、安全のため利用者様の情報を家族の協力を得て提供している。消防署の協力を得て避難訓練、救命救急講習など受講している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の意向により近隣の美容院からの訪問サービスをうけている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在権利擁護事業、青年後見人制度を利用されている方がおられ、今後また必要な方があれば、利用できるように支援していきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関を主治医に希望される方がほとんどであるため、常に異常が見られた時は連絡し指示を仰ぐことになっている。また他医療に受診を希望される方はその都度家族と連絡をとり支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法について職員は理解しており、家族、本人の希望など聞き、細かいところまで配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は利用者個々が要望など言いやすいように配慮し、ホーム長や管理者が時々本人とゆっくり話をし要望など聞いている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に利用者をあわせるのではなく、利用者のペースにあわせて業務をこなすことを念頭において一日をすごしている。時間がゆっくり進んでいると外部の方からよくいわれている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の希望で洋服を購入するため外出同行したり、近隣の美容院の方の訪問でカットから髪染め、化粧までされ大変よろこばれている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作りにも利用者の希望など聞きながら作成している。ホームの畑で育った野菜を利用している。食事準備から片付けまで一緒に行動している。入居者が困難な方を助け合いながらやられる姿がみられる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居時に希望、要望を聞き配慮している。また誕生日には好物、本人の希望メニューにて祝っている。嫌いなものや苦手な物など本人と相談しながら配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に手紙、友人に電話など自由に出来るようにしている。また家族よりかかってきた電話を取り次いで話をしていたり、娘さんよりFAXで手紙をいただいたりしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限もなく、いつでも自由にきていただき、面会の時間を大切にしたいため、職員も配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所に色々なマニュアルを置き、自由に目を通せるようにしてあり、ホーム会議などで資料など配布している。身体拘束しなくてもケアできることなど勉強会などしている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事なく、居室も開放されているが、プライバシーを配慮し声をかけてから入室するようにし、開放感には気をつけている。している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に安全を考え、利用者個々の記録に様子を記録に残し、職員全員で情報共有し安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に応じて配慮している。生活の場所に必要な物は見守りをし管理には十分注意している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年2回の消防署の方の協力を得て訓練している。ヒヤリハット、事故報告の記録を残し、ホーム内で回覧し話し合いをもっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が消防署の協力を得て、普通救命講習を取得している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て非難訓練を実施。運営推進委員会にて、地域の方とホームがお互い連携をとり、ホームの訓練などに参加していただく事を依頼している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては入居時に理解を得るようにしている。面会時に色々話をして対応策を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常利用者の状況を職員全員が把握しており、顔色、行動、食事量に異変があったら、すぐ管理者、ホーム長に報告し主治医と連携をとり指示にて敏速に行動している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が利用者全員の病名と薬の内容を理解しており、服用の確認も口頭と記録にて確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多い食材を使用する。また水分を多く摂取していただくように工夫したりして、最初から薬に頼らないようにしている。その後は主治医の指示をうけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は必ず口腔ケアの声かけをしている。介助の必要な方には誘導し、困難な方にはガーゼや綿棒で行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなるべく新しい家具などではなく、自宅で使い慣れているものをもって頂くようにしている。また位牌や家族の写真などもあればもってきていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	喚起には常に心がけており、温度調整には気をつけている。そのためか発熱される方が少ない。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーであり、廊下にも手すりがあるため、安心と言う方もみえる。またキッチンの高さや洗面台、トイレが車椅子対応になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来る事、出来ない事を見極めて、可能に近づけるように職員で話し合いをしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑仕事、花作りなど、こまめに水やりや草取りをしながら収穫し食卓にのせている。天気の良い日はベンチに座って日向ぼっこをしておられる姿や他の畑におられる方に声をかけておられる姿がみられる。		

h		
項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

運営推進会議を通して、グループホームを少しでも知っていただけたらという思いで、開放的な雰囲気の中開催させていただいています。結果として、近隣の方から、農作物をご提供いただいたり、ホーム内玄関先にて談笑されていたりと地域の方々との円滑な関係性が構築されつつあります。ご家族様との信頼関係におきましても、実家に遊びに来る感覚で来訪していただけるような関係性が築けており、常に話し合い、相談できる機会を持っています。私たちは常に、利用者様の笑顔を守っていくためにはどうしたらよいかを考え、その考えを基盤としています。